



か
ら
は
ー
い

2012年 第3号 2012/08/24

新総領事着任



アルフレッド
マグルビー

在沖米総領事館はアルフレッド・マグルビー新総領事を歓迎します。マグルビー総領事はロードアイランド州ニューポートにあります海軍大学にて戦略及び政策を担当する教授を務めていました。彼の10年にわたります日本での経験は伝道活動(1979-80)、大学院での国際関係の勉強(1987-89)、東京での政党スタッフとしての勤務(1989-91)、東京米大使館での大使特別補佐官(1995-97)、そして東京米大使館での政治部勤務(1997-99)となっています。1991年に国務省に入省して以来、マグルビー総領事は中東にも長く勤務しており(1991-93年と1999-2009年)、政治や国家安全保障について担当していました。総領事は奥様のヒロミさんと共に再度日本に赴任し沖縄の方々と交流するのを楽しみにしています。

基地経済のインパクト

沖縄の新聞はしばしば米軍基地の駐留を「負担」と言及します。「負担」という言葉は厳しすぎますが、米軍が沖縄にとって大きな影響を与えていることは否定し難いことです。県土の面積は日本の面積の1%にも満たないながら、日本に駐屯する米軍のほぼ半数の米軍の本拠地となっています。そして米軍が使用可能な全陸地の20%超を含みます。10%を若干超える沖縄県の陸地、そして沖縄本島北部の70%の陸地が米軍によって使用されています。(日米両政府の合意により、およそ北部訓練場の半分が北部地域への着陸帯の建設が完成した時点で地主へ返還されるであろうことをご承知のことと思います。)

米軍基地のインパクトは、しかしながらプラスの面もあります。基地内および基地周辺に居住する [続き](#)

エコノミック・パルス

アメリカ料理: 美味しく、健康的な選択



最優秀賞を受賞したザ・ナハテラスの国吉保晴シェフの料理、「SPAM®のブレッセ モザイク仕立て」。

あなたが代表的なアメリカ料理と想像した場合、何を思い浮かべますか？ハンバーガー、トウモロコシを想像する人もいれば、アメリカのバーベキュー料理を想像する人もいます。アイスクリームや苺ショートケーキといったスイーツを想像する人もいます。もちろん、多くのアメリカ人が暑い夏の日これらの料理を食べることを楽しみにしています。また、多くのアメリカ人は、夏に新鮮な果物と野菜、裏庭で育った熟した果物の木、を楽しんでいます。この恵みは国中の夕食に供されています。実際、ミシェル・オバマ大統領夫人とジョン・ルース駐日米大使 [続き](#)

広報コーナー

先月、7月15日～19日の日程で、沖縄のメディアの皆様を対象にメディア・ツアーを開催致しました。今年はパシフィックパートナーシップ2012を視察するため、ベトナムへと行って参りました。パシフィックパートナーシップは2007年より行われ、米海軍を中心に地域内の国々を訪問して、医療活動、文化交流を行い、参加国の連携強化や災害救援活動の円滑化を図る活動となっています。日本からは自衛隊も参加し、米軍とともに医 [続き](#)

★ 領事館情報 ★

9/10【講演会(マット・エバントフ氏・パブリックスピーキングについて)】

9/15-16【キャンプキンザーフェスティバルにて領事館ブース出展】

[続き](#)



基地経済のインパクト(続き)

米軍構成員、軍属、軍雇用員そして家族は、人と人の交流そして英語を学ぶすべての沖縄県民にとって素晴らしい資源となります。教育的資源としてはメリーランド大学のエクステンション・クラスや基地が主催している北米以外で最大のスペシャル・オリンピックもすべての県民に個人の資質を高める機会を提供します。加えて、国際的な視野から、5万人超のアメリカ人が生活しているそのことが日本で沖縄を本当ユニークな場所に行っている1つです。

しかしながら、日本とアメリカの有権者が同時に最も気にしているのが、いわゆる”札入れ問題＝経済問題”といわれていることで、基地の経済的インパクトの考察を見落とさないことが重要だと考えます。

沖縄県の統計では、県民総所得(県経済の全体規模を計量)に占める基地関係収入の割合は5.2%に過ぎません。しかし、県のこの統計は、米軍基地のインパクトの限られた部分：軍雇用者所得、軍用地料や米軍等への財・サービスの提供、だけを含んでいます。

もし基地に関連する経済活動を適切に広く計算するのであれば、基地関連の契約、個人の消費支出、軍用地料、防衛省が支出している提供施設整備費、地域での雇用そして日本政府による支出等が含まれます。我々は沖縄の県内総生産への貢献は7%を超えると見積もっています。これは農業関連の収入の4倍で、製造業のほぼ2倍になります。

7%というのと多いようには聞こえませんが、しかし、これは現実で、県民所得で日本の平均に大きな遅れている沖縄で持続的経済活動と雇用をもたらしています。加えて、大きく成長している観光業にも引けを取らず、基地関連収入の仮想損失を補てんする期待できる経済的選択肢はほとんどないと思います。

沖縄の経済という観光産業に大きく依存していると期待しているかもしれません。この分野は平成21年度の県民総所得の9.6%を占め、年々成長している分野です。しかし観光産業は、季節要因で、冷たく、雨が多い冬場は、年間を通して観光客が訪れるハワイと比較するとかなり少なくなりますし、世界経済の変動や円高も観光客数をにひびきます。

島嶼県であることと人口が比較的少なく、製造業の規模も比較的小さいことから、日本全国の平均が17%超に対し、沖縄の製造業は県内総生産の約4%に過ぎません。基地に反対する皆さんは、米国の施政権に置かれた期間が長かった(サンフランシスコ講和条約で主権を日本に返還した20年後の1972年に日本復帰)からだと非難しますが、同様に米国の施政権に置かれ1953年12月に日本に返還された鹿児島県奄美群島でも製造業の規模はほぼ同じです。

さらに、引用した7%というのは、基地の総合的な貢献の控えめな数字です。沖縄県の歳入が比較的低いとはいえ、東京からかなり高額な財政支出を受けています。平成20年度の県(国)内総生産に占める財政支出の全国平均が23.0%に対して、沖縄県は39.9%です。平成21年度の沖縄県の歳入の構成をみると地方税等の自主財源は歳入全体の約27%であるのに対し、全国の自主財源の構成は約50%となっています。沖縄県は国庫や政府の他の財源から補っています。

いくつかは県経済の状況に反映されています、アメリカの貧しい州のように、日本でも平均よりも収入の低い県は政府からの財政補助をより受けられる傾向にあります。しかし、特に沖縄の狭い面積を考慮すると大規模な建設プロジェクトへの支出は限定されます。

私どもは米軍のインパクトをすべて肯定する議論をしてはいません。日米両政府は米軍のフットプリントを縮小させる必要性をずっと以前から認識しており、沖縄でのインパクトを削減するために二国間協定に基づいて真摯に取り組んでいます。特に嘉手納以南の人口密度の高い地域については、4月の2+2合意でこのポイントを再度強調しています。



エコノミック・パルス(続き)



2位入賞のロワジュールホテル&スパタワー那覇、渡久口悠シェフの「アメリカ野菜とSPAM®ポークランチョンミートのミルフィーユ仕立て」

のスージー・ルース夫人はともに家庭菜園を持っており、庭で採れた野菜やハーブを使った健康的な食事を楽しんでいます。グリーン総領事はアメリカで日常的に使われている野菜を新しく使った2つのイベントを楽しむ機会を得ました。

この夏、米国総領事館、アメリカ農産物貿易事務所(ATO)とホームル社は、SPAM®関連製品の75周年記念とATOの“V5”米国産野菜を紹介するキャンペーンのレシピ・コンテストを企画しました。V5キャンペーンは、新鮮な米国産のロメインレタス、セロリそしてブロッコリー、これらの野菜の新しく、美味しく組み合わせて紹介するものです。このユニークな“V5 & SPAM® レシピ・コンテスト”は、シェフ達に新鮮な米国産のロメインレタス、

セロリそしてブロッコリーとSPAM®製品を用いた新しい料理を要求しました。9つの沖縄を代表するホテルがこのレシピ・コンテストに参加し、38のレシピが提供されました。7名の最終選考に残ったシェフが創作した料理を7月6日にグリーン総領事が主催した昼食会で提供し、試食した招待客が自分の好みの味に投票し、勝者を選びました。ホームル社が寛容にも最優秀賞受賞者には2名をホームル社本社の所在するミネソタ州への全費用を負担しての旅行を、2位と3位の入賞者にはホームルグッズを寄贈しました。皆様も最優秀賞を受賞した国吉保晴シェフの料理「SPAM®のプレッセモザイク仕立」を賞味することができます。8月末までザ・ナハテラスで提供しています。

この春には、訪問中だった国務省幹部のダニエル・クルーン氏が、ヘルシーリビングと銘打った昼食会を宜野湾市のあしびjimaで開催しました。米国務省海洋・国際環境・科学担当の国務次官補代理としてクルーン氏は健康的な生活についてのアメリカのアウトリーチの責任を負っています。大統領夫人の“レッツ・ムーブ”イニシアチブを通してオバマ夫人はアメリカ人家族に接しながら行動し健康的な食事や多くの果物と野菜を食べよう奨励しています。クルーン氏は米国の“レッツ・ムーブ”と家庭菜園の経験、沖縄の有名な健康料理と日本と沖縄の指導者たちが家族や子供に食育を行っているかを分かちあいたがっていました。



3位入賞の沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ、平良朝政シェフの「サプライズプレート」

あしびjimaの店主の宮里 澄子さんが5月25日の昼食会で、新鮮なロメインレタス、セロリ、ブロッコリー、ドライフルーツ、ナッツそしてあしびjimaの家庭菜園で栽培されたゴーヤやハーブを使った健康的なアメリカと沖縄の料理を融合した特別なメニューを考案しました。クルーン氏、グリーン総領事、佐喜真宜野湾市長が料理を楽しみながら、米国や沖縄の食文化や栄養教育について、沖縄の料理人、栄養士及び教育の専門家と意見交換を行いました。



参加者はヘルシー・リビング・ランチで、米国産レタスの葉、にが菜、米国産ナッツとしる味噌ピーナッツバター和え、米産セロリと沖縄産ゴーヤーのジュース、ピーナッツ豆腐と米国産レーズンのトッピング(写真参照)といった料理を楽しんだ。

[1ページ目に戻る](#)



広報コーナー(続き)

療、地域貢献活動を展開しています。



JPACで担当者からブリーフィングを受ける記者団

視察初日となりました7月16日は、統合戦時捕虜行方不明者調査隊(JPAC)を訪問しました。過去の紛争で行方不明となった米国人について調査をする米国防総省の機関です。JPACチームは世界各地を調査し、米国人の遺骨の発掘作業を行っています。遺骨を回収しますと、世界最大の法医学系人類学研究所であるJPACの中央識別研究所に運ばれ、そこで遺骨の身元識別を試みます。アメリカ人の身元が特定されますと、遺骨は軍礼とともに家族に返還されます。

また、ハノイの米国大使館におきまして米国とベトナムとの関係についてのブリーフィングを受けました。大使館担当官より、軍事・政治・経済の分野における協力や課題などについての説明がありました。

そして、夕方はメディア・ツアー恒例のハッピー・アワー。駐ハノイ米国大使をはじめ、地元ベトナムの記者の皆様も参加して楽しく交流しました。沖縄から参加されたメディアの皆さんは特に、ベトナムの記者さんから現地の生の声をこの間に取材されていました。

さて、7月17日には午前中に日・米・ベトナム関係に関する会議に同席した後、午後にはパシフィックパートナーシップ活動を展開しているVinh市に飛行機で移動。Vinh市に到着しましたら、米海軍広報官と夕食を食べながらスケジュールの確認を行いました。

7月18日、いよいよパシフィックパートナーシップ2012の視察本番となりました。まずは診療所の建設現場へ。地元の建設業の方と米海軍のSeabee(設営部隊)と豪軍、そしてNGOの皆さんで協力しながら新しい診療所を建設していました。現地で維持可能な施設にするため、工法はベトナムの方法で建築し、建築のノウハウをお互いに伝授しながら作業を行っていました。

建設現場を訪問した後に獣医チームの活動を見学しに豚小屋を訪問しました。近づくと断末魔のような悲鳴が聞こえて来て驚いたのですが、声の主は予防接種をされている子豚さん達でした。家畜は人々の生活の糧となる大切な財産であり、またその健康・衛生は飼っている人間にも大きな影響を与えるため、米軍の獣医チームが家々をまわって病気の治療やワクチンの投与を行っていました。

昼食後はこの視察のハイライトとなります病院船Mercyへ乗船しました。まずは、小型ボートに揺られること30分、ボートの中では語学ボランティアとして参加するベトナムの大学生の皆さんも一緒でした。皆さん、年に一度開催されるこの取り組みを楽しみに待っており、6時間かけてMercyに辿り着いたという学生もいました。

病院船Mercyは6万5千トンで1,200名が乗船。うち船を動かしている民間の乗組員が70名で残りは全て医療チームやNGOのボランティアです。まずは、船内で今回のミッションについて説明を受けました。

Mercyには12の手術室もあり、1日20の外科手術をこなしているとのことでした。こちらでもやはり現地の医療スタッフとの医療技術の提携に力を入れており、お互いに知識や技術の交換を積極的に行っていました。また、船内だけの治療ではなく、Vinh市の病院やクリニックにも医師や看護師を派遣して治療活動を展開していました。この巨大な病院船MercyにはMH60Sヘリコプター2機も搭載。緊急患者、医師などの搬送や物資や薬の運搬業務にあたっていました。

[1ページ目に戻る](#) [続き](#)



広報コーナー(続き)



Mercyで記念撮影

ここで領事館職員は7月19日早朝の帰国に備え、小型ボードにて岸へ。メディアの皆さんはMercyから自衛隊のおおすみへとこれまた船で移動し、現地における自衛隊のパンフィックパートナーシップの活動について説明を受けました。そして何と宿泊も自衛隊のご好意により、おおすみにて。帰国直後の記者さんによりますと、まだ地面が揺れているような感じが・・・とのことでした。

恥ずかしながらこのような大規模な医療・文化活動が地域内で展開されていることを知らず、今回の視察を通しましてその規模と活動内容に大変感銘を受けました。参加されている皆さんは非常にモチベーションも高く、少しでもこの地域内に貢献できることを誇りに思うという方々ばかりでした。また、このパンフィックパートナーシップで培われた多国間の連携は必ずや将来の災害救援活動に大きく寄与するものと思います。

[1ページ目に戻る](#)

★ 領事館情報(続き) ★

- 9/22 【中学生・高校生/英語パワーポイントプレゼンテーションコンテスト】
時間: 10:00~14:00 場所: 沖縄カフーリゾート フチャクCOND・ホテル
- 10/6-7 【キャンプフォスターフェスティバルにて領事館ブース出展】
- 10/11 【宮本貴奈氏によるピアノ&トーク マスタークラス】

英語で朝活

毎月第2、第4火曜日にスターバックス浦添パークレーズコート店にて午前7時半より1時間、英会話を楽しみませんか？英語を練習したい方はぜひご参加下さい。

[1ページ目に戻る](#)

follow us on
twitter

[イベント情報はこちらで。フォローよろしくお願いします！](#)



[「いいね！」クリックしてイベント情報を受け取ってみませんか？](#)